

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 教科別担任や少人数指導によるきめ細かな指導体制が功を奏したか、領域別・観点別共に目標値を下回るものはほとんど見られず、特に6年生の結果はほぼ上回っていた。
- 学年が上がるにつれて主体的に学習に取り組む姿が低くなるという昨年の課題は改善されつつあるので今後も指導方法に創意工夫していく。
- 苦手だった数量関係を考えて解決する問題についても目標値を上回ることができた。

(2) 課題

- 観点別において第4学年と第5学年には目標値を上回るものが少なく、同程度の結果となったため、3観点についてより向上を目指してより細かく授業の改善を図っていきたい。
- 学校全体としては算数ではほぼ好成績をおさめることができたが、第5学年は目標値を上回るものが少なく、全領域において「目標値と同程度」なので、ドリルパークなどを活用して苦手な児童に対してより細かく気を配っていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

△…目標値より5ポイント以上高い ▼…目標値より5ポイント以上低い ≡…目標値と同程度

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	ほとんどの項目において目標値と比較すると上回るまたは同程度の項目が多かった。 領域別 ・数と計算 △ ・図形 ▼ ・変化と関係 ≡ ・データ活用 △ 観点別 ・知識技能 ≡ ・思考判断表現 △		
第5学年	目標値と比較すると同程度の項目であった。 領域別 ・数と計算 ≡ ・図形 ≡ ・変化と関係 ≡ ・データ活用 ≡ 観点別 ・知識・技能 ≡ ・思考判断表現 ≡	ほとんどの項目において目標値と比較すると上回るまたは同程度の項目が多かった。 観点別では、主体的に学習に取り組む態度だけが目標値と比較すると同程度と評価された。 観点別 ・知識技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的に学習に取り組む ≡ (第4学年時)	

第6 学年	ほとんどの項目において区・全国平均正答率や目標値を上回った。	ほとんどの項目において区・全国平均正答率や目標値を上回った。	ほとんどの項目において、目標値を上回った。
	領域別 ・数と計算 △ ・図形 △ ・変化と関係 △ ・データ活用 △ 観点別でも、3観点共に区・全国平均正答率や目標値を上回った。 ・知識・技能 △ ・思考判断表現 △	領域別 ・数と計算 △ ・図形 △ ・変化と関係 △ ・データ活用 △ 観点別でも、3観点共に区・全国平均正答率や目標値を上回った。 ・知識・技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的に学習に取り組む △ (第5学年時)	領域別 ・数と計算 △ ・図形 △ ・変化と関係 △ ・データ活用 △ 観点別 ・知識技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的に学習に取り組む ≧ 目標値と比較すると上回るか、同程度という結果になった。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現
円と球・三角形のボールの半径を求める問題と、時こくと時間の一定時間前の時刻を求める問題で目標値を下回った。	- 理由を説明する記述問題以外は、全体的に目標値を大きく上回った。 □を使った式に関して、計算の意味理解や、乗法の式に表す問題は、全体的に大きく目標値を上回った。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現
5年生は、小数の計算問題に関して、目標値を大きく下回った。 6年生は基準量と比較量から割合を求める問題において、目標値を15ポイント下回った。それ以外の項目のほぼ全てで目標値を上回った。	5年生は、わり算の式の意味理解に関しての理解が不十分であり、目標値を大きく下回った。 6年生は全体の問題を通して、11ポイント目標値を上回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 算数ブロックやおはじき等具体物を使って、計算のきまりを理解させる。 - かけ算九九を覚えたり、わり算の意味を具体物や図を使ったりして理解できるようにする。 - ドリルパーク等、取り組み結果がすぐに分かる教具を活用して反復練習をし、計算技能を習得させる。	- 絵や図等半具体物を使って自分の考えをもち、言葉で相手に伝えることができるようにする。 - 話し合い活動を随時取り入れて考えを深められるようにする。 - 問題文を読み取り、分かっていることと分からないことにマーキングして整理してから立式するようにさせる。	- 身近な生活場面に置き換えて考えさせ、学習意欲を喚起させる。 - 具体物やデジタル教材を手立てとして活用し、自己解決しようとする意欲をもたせる。 - ペアやグループでの話し合いを取り入れて、表現したり新たな考え方に気付いたりできるようにする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 小数や分数の大きさは元の大きさで変わること必要に応じて数直線を使って考えたり、ペアやグループで説明をしたりして理解を深められるようにする。 - 身の回りにある長さや重さ等を、測る活動を通して量感を養う。 - 円の作図をしたり円の揭示物を作成したりして直径、半径、中心など算数用語を意識させ、活用できるようにする。 - 日常的に時間や時刻を意識させ、一定時間前の時刻を捉えさせる。 - プリントやドリルパークを活用して、除法・乗法等の計算練習に取り組ませて技能の精度を上げる。	- 自分の考えを図、表、言葉、式などいろいろな方法で表現させ、根拠を明確にして説明できるようにする。 - ペア・グループで説明する活動を通して、より良い考え方に気付かせる。	- 単元ごとにコースを選択して授業に参加させ、自信をもって考えを提案できるようにさせる。 - ペアやグループでの話し合いの時間をもち、友達の考え方を知ったり、自分の考えを説明したりできるようにする。 - ドリルパーク等 ICT を活用して自主学習を促す。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 比や割合を表す言葉やそれが表す意味を図を使って確認することで、基本的な知識の定着を図る。 - 比を使った計算を正しくするために分数での計算方法の技能を習得させる。 - 小数の意味を確認して、計算練習に取り組ませ、計算技能の精度を上げる。	- 比例、単位量あたりの大きさやわり算の意味について理解するために図、表、言葉、式などいろいろな方法で説明できるようにする。 - ペア・グループで自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いてヒントを得たり、考えを深められるようにする。	- どの児童も活躍できるように単元ごとにコースを選べるように工夫する。 - プリントやドリルパーク等、教材を工夫して意欲をもって学べるようにする。

